

7月(2022年)の流星群活動

IAU(国際天文連合)リストを独自に眼視チェック

河越彰彦

定常流星群は活発

7月は表1の観測量で表2の結果を得た。先月末から続くうお座 ϕ 流星群(PPS)は弱いながらも活動は認められた。南天で活動する、やぎ α 群、みずがめ δ 群は別表に示すように明瞭な出現があり、それは昨年より活発であるように見えた。みずがめ群は北系統のほうがやや盛んに見受けられたが、これは放射点仰角の関係かもしれない。

また、ペルセウス群は7月としてはよく目だった。7年は月初めから好天に恵まれ例年になく7月の観測ができたことが最大要因と思われる。全般的に定常群は活発であった。

ペガサス座の突発群？

No.175(JPE)7月ペガサス座 ι がその正体ではないかと推定している。この突発群はNMS同報01544で注意喚起したものだが、その後の調査で既知の7月ペガサス座 ι の可能性が高くなった。観測日は27/28、位置は α 340° δ +20° 付近で時期も位置も大変近いのが理由。尚、8月もペガサス座に流星群活動を捉えているが、これらは全く別物である。

その他の流星群の様子

第2表でも明らかなように、第1級候補、第2級の35個群は弱い活動が7群あったのみで振るわなかった。その中でひとつだけ来年に期待したいのは、No.177(BCA)カシオペア座 β だろう。あとの群は各一個なので散在流星に埋没している。

流星のプロフィール

長年眼視観測していると時々特徴的な流星にめぐり合う。長経路、有痕、爆発などと違い流星本体の形状の多様性に驚くことがある。紙面の都合で詳細は後日に譲るが、本体の輪郭そのものの形状でプロフィールと呼ぶことにしている。残念ながら200時間に及ぶI.I.カメラ(30f/sec)でさえ角速度の関係でよく映っていない(写真参照)。換言すると30Hz以上の変動は記録できない。そんな電離柱の振る舞いは光学的には難しい現実だが、近年の電波観測技術でこの特徴がエコーの画像で判別できれば嬉しい。過去に詳細に図分類した事例に感動したことがあり、鋭眼の観測者は数を多く見るのみではなく、プロフィールまでも記録できるのかと、今日思い出してもその劣化しない新鮮さには敬服するのみである。以上。

レベル	総数	确实	弱い活動	流星数	未確認群
第1級	8	5	2	75	1
第1級候補	6	0	1	1	5
第2級	29	0	6	11	23
合計	43	5	9	87	29

[illegible]

以上の流星群名称は和名命名ルールに基づいた名称で統一した。

参照写真

I.I.カメラで捉えた流星動画のひとコマ。当然拡大しても輪郭は不明瞭のままである。

2009年おうし群火球はハローが映ったが、詳細構造はこのままでは全く把握できない。

2012 年ふたご群画像の右上はポルックス。いずれも撮影は筆者。

